

IT技術者を社外講師に

ISF、教育会社と契約

ITインフラ構築を手がけるアイエスエフネット（ISF NET、東京都港区、渡辺幸義社長）は、自社の技術者をIT人材教育サービスのトレノケート（東京都新宿区）の講師として派遣する契約を同社と結んだ。社外での講師経験を有用な職歴と位置付けるISF NETと、質の高い実務経験者を講師陣に迎えたいトレノケートの思惑が一致した。派遣講師数は現在6人で試行しており、2024年には23人に引き上げる。



ISF NETの社内研修

教える経験、スキルに

ISF NETは自社の社員教育でトレノケートの講習を常時活用している。トレノケートはITインフラ関連の人材教育で定評があり、企業向けにオンライン研修や集合研修などを提供している。講師派遣はこうした信頼関係をベースに行うが、大口顧客から講師陣を多数迎え入れるのはB2B（企業間）におけるIT人材教育では珍しい。ISF NETが派

遣するのは、注力するITインフラやセキュリティ分野で活躍する技術者。その多くは現場経験を含め高いスキルを持つが、人に教えるノウハウは十分でない。講師経験は、そうした知見を得られる格好の機会となる。また「技術者としての箔を付ける意味でも有効だ」（國吉陽介ソリューション本部副部長）とみている。キャリアパス（職歴）における位置付けを明確化する。

トレノケートの講師経験で得たノウハウを内製化することで、ISF NETの社内教育を充実させる狙いもある。クラウドやRPA（ソフトウェア型のロボットによる業務自動化）といった領域での社内教育に生かす。一方、トレノケート側は講師不足を補うとともに集合研修でもメニューがある。トレノケートでは地方での集合研修のために東京から講師を派遣することが多い。ISF NETは名古屋や大阪などに事業拠点をもち、これらの都市の講師をトレノケートが活用できれば経費削減にもつながる。

し、現場に戻る道を担保しながら進めていく考えた。